

第 8 回 熊野川懇談会

参考資料 1

提 供 資 料 集



< 一般の方からのご意見 >

( 公開の確認をいただいた方の意見のみを掲載させていただいております。 )

提供者	田辺市本宮町 燈 公夫 様
<p>私にとって、熊野川は、正に「母なる川」であり、七十余年の人生を熊野川とともに育ってきたような思いで、特別の思い入れをもって熊野川を見てきました。</p> <p>熊野川は、熊野地方の大動脈であり、生命線とも言うべき存在であることは誰も一致して認めるところだと思います。</p> <p>かつて、明治の文豪「田山花袋」は、熊野詣をした際、熊野川をみて「日本で最もすばらしい川」であると称えています。</p> <p>熊野川は、いま世界で唯一「川の古道」として、世界遺産に登録されている誇るべき宝でもあります。特に、本宮大斎原から新宮に下る「川下り」は歴史的に見て「川の古道」としてのメインであり、地域の文化、歴史、景観に大きな意義をもつものであります。</p> <p>しかし、いま、その熊野川の実態は如何でしょうか？ 世界遺産にふさわしい景観をなしていると云えるでしょうか？</p> <p>特に、メインルートとなるべき本宮以下の熊野川の状況は、景観的には、極論すれば「死」に等しい状態と云わざるを得ません。川は「清らかな流れ」があって「川」であります。</p> <p>昭和 30 年代後半に完成された上流の幾つかのダムは、下流域の住民に少なからず便益をもたらし、地域の経済・文化生活に一定の効果をもたらしていることは事実であり、評価すべきところも大きいと思います。</p> <p>従って、いたずらにダムの存在を否定するものではありませんが、しかし現状ではあまりにも悲しい姿であると云わざるを得ません。企業も地域も個人も又、自然景観も熊野川があってこそ、その存在価値が生じる訳ですから、そこにはおのずからお互いに協調、共存出来得る条件が多々あるはずで、それぞれの立場を尊重しあいながらも話し合いを続ける中から、かつての熊野川の自然景観を出来る限り取り戻す努力を積み重ねるべきではないでしょうか。</p> <p>専門家を含め関係各位が真剣にこの問題を検討し、問題点を明らかにして、その対策を具体化されんことを期待しています。</p>	